

鶴舞カントリー倶楽部の改修について設計家・杉本昌治氏に伺う

はじめに

千葉県の鶴舞カントリー倶楽部では 2021 年に開場 50 周年を迎えたことから、その記念事業の一環として、東西 36 ホール全てに及ぶコース改修を行っている。この工事を監修しているのは、コース設計家であり東急グリーンシステム株式会社の杉本昌治（スギモト マサシ）氏である。2023 年 3 月中旬に杉本氏の勤務先を訪ね、現時点における工事の進捗状況及び改修ポイントなどを伺う事が出来たので、そのレポートをまとめてみたい。

このレポートが多くのごゴルフファンへ鶴舞カントリー倶楽部の変わり行く姿、そしてコースの外観上のみでは分からない内情、例えばゴルフ場と言う舞台装置の一端を、少しでも伝えられたならば取材冥利に尽きる。

設計家・杉本昌治氏について

杉本氏は大学卒業後に東急グリーンシステム株式会社へ入社し、故・宮澤長平（ミヤザワ チョウヘイ）氏のもとで約 20 年、黒澤長夫（クロサワ オサオ）氏のもとで約 25 年、ゴルフ場の企画やコース設計・工事管理などを行ってきた。

特に宮澤氏は著名なコース設計家である井上誠一氏より、直に手ほどきを受けた直弟子とも言える人物で有る事から、その宮澤氏の薫陶を受けた杉本氏は、ある意味井上氏の孫弟子とも言える存在になる。宮澤氏と苦楽を共にした杉本氏の 20 年は、井上氏のエキスを学ぶには、十分な時間だったとも言える。



< コース改修：設計家_杉本 昌治 氏 >

★ 此れ迄杉本氏が手掛けたコースの一部

- 1、麻倉ゴルフ倶楽部設計（設計、監修）
 - 2、富士カントリークラブ（改造設計）
 - 3、ファイブハンドレッドクラブ（改造設計・監修）
 - 4、竈坂ゴルフクラブ（改造設計・監修）
- その他

コース改修のポイント

当該倶楽部に於けるこの度のコース改修とは、レイアウトやホール形状までを変えるものではなく、あくまでも原設計者である井上誠一氏のオリジナルデザインのグリーンを再現する事であり、また樹木については開場後 50 年を経て、樹木の繁茂と無計画的植林により、井上氏が当初イメージしていたコースの雰囲気とはかけ離れたものに成っている事から、これを修正しようとするものである。

杉本氏曰く、市原大地に描かれた鶴舞カントリー倶楽部の各ホールは雄大であり、50 年前に造られたゴルフ場とは思えないほど今に通じている。現在の進化したゴルフギアをもってしても、十分に堪能出来る内容になっているとの事だ。であるが故にグリーンと植栽を井上氏デザインへ修復する事、この 2 点がこの度の大きなテーマである。

そしてこの大きな 2 大テーマ策定に当たっては、当該倶楽部 50 周年記念事業の一環として、グリーン改修が議題に上り始めた頃、井上氏のオリジナル設計図の所在を確認出来た点が大きく影響している。この設計図が無ければ、ある意味改修事業は、迷走していたかも知れない。

「井上誠一オリジナルデザインのより良い再現」この御旗は、倶楽部執行部そして会員それぞれが、納得出来る最大のキーワードだったとも言える。では実際にどのような工事を行うのかは、概ね下記の 3 点にまとめられる。なお当該コースはベント芝の 2 グリーン体制で、それぞれニューとオールドと言う呼称だが、この度の改修工事はオールドグリーンが対象である。

- 1、 グリーンの改修（勾配調整、床の改修）
- 2、 DC-1 への芝種変更
- 3、 間伐

次項では具体的にこの課題をみて行く事にする。

1、グリーンの改修（勾配調整、床の改修）

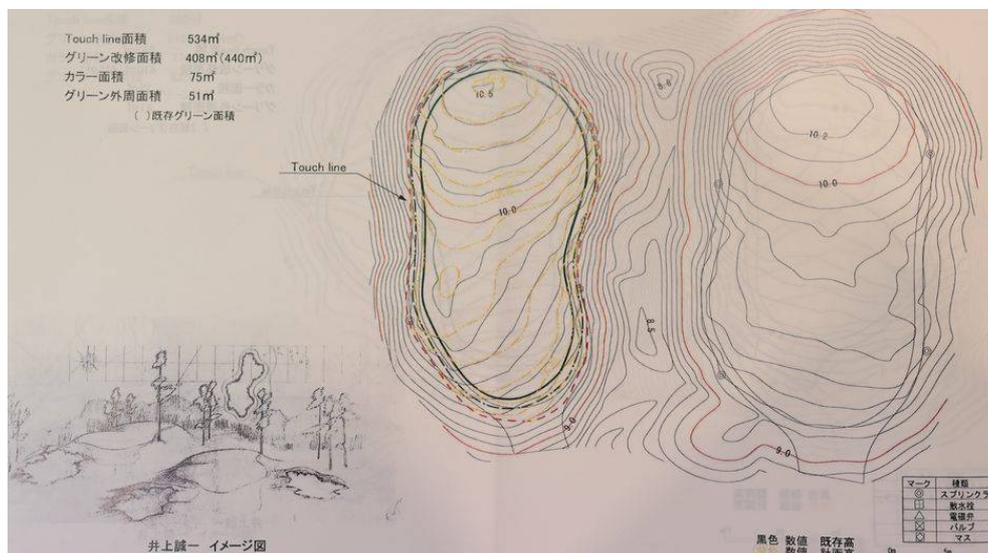
開場後約 50 年を経たグリーンは、雨風などにより経年変化をもたらし、傾斜がきつくなっていた。平均的勾配が 4.4%になっている現状、此れが井上デザインと近年思われて来た訳だが、オリジナルでは実際 3.3%となっている。この点を修正、つまり勾配調整を行う事で、より良くオリジナルデザインを再現しよ

うとするものである。

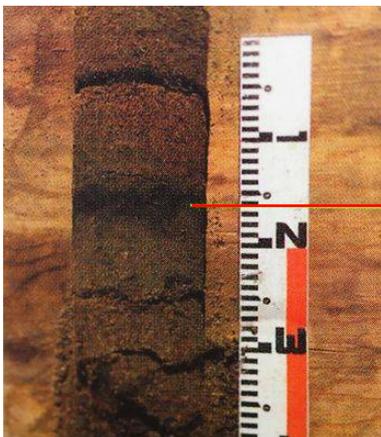
この作業は既に昨年 2022 年 6 月より西コースで行ってきており、そして今年 2023 年 6 月より東コースでも行う事になる。

下記図は東コースの 12 番ホールのグリーン形状だが、向かって左側がオールドグリーンであり、色付きの等高線が計画アンジュレーションと成っている。等高線が緩やかになっている事からも、改修の狙いが素直に理解出来る。これはほんの一例に過ぎないが、この様な改修作業を東コース全てのオールドグリーンで今後行う事になる。

< 東コース・オールドグリーン NO.12H 改修計画 >



とは言うもののこの工事に入る前に、難点の一つ発生した。それはグリーン表面から地下へのわずかな地層に、数ミリにおよぶ不透水層の存在が確認されたのだ。文字通りこの地層は水はけを悪くし、根腐れなどの問題を引き起こす要因になる為、この除去を含めた床の改修、つまり土壌改良作業が求められたのである。



勾配調整作業以前に不透水層除去作業、これは西コースでも行っていたのだが、東コースでも必須の作業となったのである。

不透水層

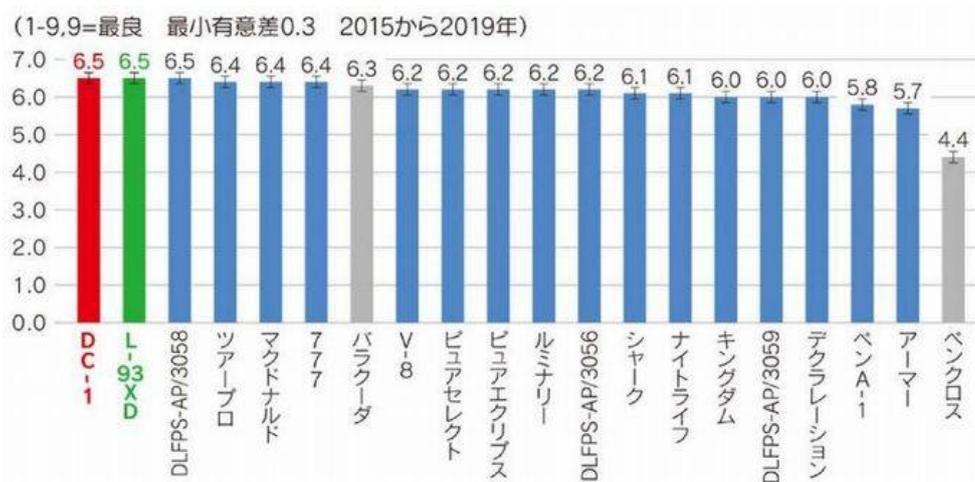
2、DC-1 への芝種変更

かねてより当該ゴルフ場は、2 グリーン体制をとって来ており、現在もその体制に変更は無い。さかのぼれば（コーライとベント）から、（ベントとベント）への体制へ移行して来ており、このベント 2 グリーンの具体的な芝種が、今回ペンクロロー色からペンクロと DC-1 という体制へ変更される。

此処に至る過程では、第 4 世代と言われる目ぼしい芝種の適用試験を、当該ゴルフ場では行ってきている。その中で DC-1 は夏場でのダメージが少なく、また病害も出辛かった点が大いに評価された。これ迄日本ではあまり耳にする事の少なかった芝種だが、既に東京ゴルフ倶楽部（埼玉県）や相模カンツリー倶楽部（神奈川県）では導入されており、これ等を視察した杉本氏や鶴舞カントリー倶楽部スタッフの感触は、すこぶる良いものだった。

杉本氏は DC-1 について、「当該コースでの試験結果も良かったですし、NTEP（エヌテップ）でも高い評価を得られております。種は米国からの輸入に頼らざるを得ませんが、此れ以上の芝種が出て来ない限り、米国での生産は継続される事と思います。夏でも比較的速いグリーンスピードを提供出来る芝種ですので、会員様にも喜んで頂けるグリーンになると思います」との事。

NTEP 総合評価



< 上記表は東洋グリーン株式会社のWEBサイトより >

※ NTEP とは

NTEP (National Turfgrass Evaluation Program) この組織の目的は、定まった評価がされていない新品種について、基本性能の評価を実施すること。

3、間伐

ゴルフ場の各ホールを左右両サイドから覆いかぶさる様に茂る林帯を、風格があるなどと評し手を加え

る事を非難するゴルフ場関係者は少なくなった。温暖化と異常気象への心構えが問われる様になった近年、ゴルフ場では林帯の間伐を行う事で、風通しと陽当たりを改善し、その一助にしようとしている。これが酷暑対策として、有効だと判断しての策なのである。

この様な一般的コース管理の流れに沿うと共に杉本氏による改修は、井上氏が造形した当初の美しさを取り戻す作業であり狙いである。50年の間、不規則に生い茂った雑木と、不用意に行われた植林、これ等を除去する事で、井上氏が想い描いたであろうコース美を取り戻そうとしている。

工程表

今後これらの作業が、東コースでどのようなスケジュールで進められていくのか、その一端を杉本氏より伺えたので下記へ表記するものの、工事は天候にも大きく左右される為、あくまでも予定である事をご理解頂きたい。

- | | | |
|-----------------------------|---|------------------|
| 2023年6月初旬
↓
2023年7月中旬 | } | 1番ホールから9番ホール迄の工事 |
|-----------------------------|---|------------------|

- | | | |
|-----------------------------|---|--------------------|
| 2023年7月初旬
↓
2023年8月中旬 | } | 10番ホールから18番ホール迄の工事 |
|-----------------------------|---|--------------------|

- | | | |
|-----------------------------|---|--------------------|
| 2023年8月中旬
↓
2023年9月中旬 | } | 芝張り、面仕上げ監修、播種工、散水工 |
|-----------------------------|---|--------------------|

- | | | |
|-----------------------------|---|------|
| 2023年9月中旬
↓
2024年5月下旬 | } | 養生期間 |
|-----------------------------|---|------|

- 2024年5月下旬より使用予定

最後に

杉本氏曰く、「鶴舞カントリー倶楽部は井上氏設計コースの中でも10指に入ると考えています、なぜ会員権市場で評価されないのでしょうか」と疑問を呈しておられた。

ゴルフコース良く交通アクセスも良い、これ等を考えた場合、杉本氏の疑問も素直にうなずける。かつて千葉県のゴルフ場は、「良いコースがあるのに交通手段が貧困」、此れが定説だった。当該倶楽部もこの呪縛にさいなまされた時期があった訳だが、2013年4月27日に市原鶴舞インターチェンジが開通した事から今は開放されている。

このおかれた素晴らしい客観条件を飛躍させる為には、運営システムやソフト面そしてコースメンテナンス、これらの更なる改善が求められている。これらの点を自覚し、日々地道な努力を続けている当該倶楽部の姿勢が評価され、そして会員権市場へ反映されて行く為には、それなりの時間も必要なのでは無いだろうか。

多くのゴルファーへ当該倶楽部が変わり行く姿を見たくて伝えられる、来場者の誰しもが感じ取れるハード面での変化は、杉本氏の疑問が愚問へ変わる、その日が近い事を予感させる。会員満足度をアップさせようとするクラブ側の姿勢は、いずれ報われる日が来る様に思われる。

2023年4月20日

文__大野良夫

© Yoshio Ono

日本ゴルフジャーナリスト協会 会員